

令和2年度（2020年度）定時制後期終業式 校長式辞

令和2年度後期終業式にあたり、私から話をさせていただきます。

昨日は、生徒会行事、お疲れ様でした。素晴らしい交流ができたのではないかと思います。

ところで、みなさん、後期の学校生活を振り返ってみてください、と言っても長い期間だったので、たくさんあってちょっと整理できないという人もいるかもしれません。前期は新型コロナウイルスと豪雨災害による臨時休校で短い学期でした。しかし、後期は10月からの半年間という長期間で、このような長い学期を経験したのは初めてだったでしょう。その間、人定では、新たな取り組みなど、様々な学習活動が行われてきました。私の方で主なものをあげてみたいと思います。

まず、10月に、人定 MyRevo プロジェクトの一環で「フラワーBOX 教室」が開かれ、すてきなフラワーBOX をそれぞれが心を込めて作り、被災した方々に配りました。また地元理解研修では、「グループ別フィールドワーク」で地域の方々からたくさんのことを学びました。そして人吉旅館で、先生方と共に汗を流して「復旧ボランティア」に取り組みました。11月は、初の「夜のオープンスクール」を実施し、生徒会を中心に中学3年生やその保護者、中学校の先生方に人定の学びを紹介しました。中学校の先生方は、君たちの成長した姿が見られて本当に喜んでおられました。12月は、みんなで調理はできませんでしたが、生徒会が脱出ゲームを考案し、例年と変わらず楽しい「ビストロ人定」となりました。そして1月、これも人定 MyRevo プロジェクトのまとめ企画ですが、「水俣高校とのリモート交流会」という画期的な学びを行いました。探究活動で他校生と繋がり、大いなる刺激を受けたのではないのでしょうか。

そして昨日の生徒会行事「輪投げ大会」で1年を締めくくりました。もちろん、その間、定期考査や漢字チャレンジタイム（12月）、英単語オリンピック（3月）があり、各々が目標を持って取り組んでいたことでしょう。

こうして振り返ると、コロナ禍で行事・イベントが中止、縮小される中、人定はむしろ例年以上に充実した半年間だったのではないのでしょうか。学年の垣根を越えた取組が数多くあり、同級生はもとより先輩・後輩のいろんな考え方に触れて、学びも重層的になったのではないのでしょうか。この流れは、4月に新入生が入ってきても継続してほしいと思います。

皆さんは、一つ一つの行事や節目ごとに、着実に成長してきました。皆さん自身は、なかなか実感していないかもしれませんが、私が傍から皆さんのことを見ていたり、先生方から皆さんの様子を伺ったりして、成長の跡を感じているところです。私がこれまで話してきたように、本校では、学習活動だけでなく学校行事を通して3つの力「知識・技能・体験力」、「論理的思考力」、そして「アート力」を身につけていきます。来年度は、これら3つの力が、自分にも備わってきたなど実感できるような1年にしてください。そして、開催できなかった、定通体育大会や定通文化大会で、皆さんの成果を発揮してください。

ところで、先日の熊日新聞の記事を一つ紹介します。君たちの先輩、ジャイレックさん、西さんの特別皆勤賞（4カ年）が大きく取り上げられて、多大な反響を呼びましたが、また別の人で、直向きに頑張っている姿も掲載されました。熊本市内の学校で外国語指導助手ALTを務めるケイトリン・プーザーさんというイギリス出身の方の記事です。ケイトリンさんは、いじめや虐待の兆候を検知できるというアプリ「ガーディアン」を開発しました。そしてアプリが、熊本市内の小中学校に試験的に導入され始めたという記事でした。彼女は、母国イギリスの大学で犯罪学と日本語を学び、2016年来日、A

ITとして働く中で、日本人はつらい気持ちを言い出せない人が多く、問題が表面化しにくいと感じたそうです。そういった「異文化ギャップに気づく」までは、多くの人を経験しますが、「悲しい思いを抱える子どもを早く見つけて、どうにかしたい」という強い思いを、アプリ開発という行動に移すところが違います。異国の地であっても、気づいたら、考えて行動に移してみる、そうすると自ずと支援者、応援者も出てきます。昨年度、彼女は、女性や若者の活躍と企業をサポートする一般社団法人JSIEのワークショップでアイデアを発表し、最優秀賞を受賞しました。そして、そのアイデアをIT企業が目を付けて「ガーディアン」アプリを制作したそうです。ちなみに、JSIEという団体は、「社会の閉塞感を打ち破る大きな原動力となりうる女性や若者の活躍の場を広げ、一人ひとりがリーダーシップをとり、力を発揮し行動することによって、誰もが自分らしい生き方のできる社会の実現」を目指しています。

先日の卒業式での式辞で、「多様性」を生かして、他の人と「協働」していく「ダイバーシティ」の考え方にふれました。ケイトリンさんのアプリ開発は、外国人の目からの気づき・発想を、多くの人たちが認め、賞賛し、他の人たちが応援した結果できあがったものだと思います。それで社会が幸せになっていけば、本当に素晴らしいことだと思います。

人定の皆さんも、男子・女子、同じ学年であっても異年齢、違った経歴、そして違った価値観を持った人たちが集まっています。来年度も、「多様性」に溢れた人定で、たくさんの新たな発想をお互いに出し合って、社会で活躍する力を付けていってください。

私は、人定の皆さんの大いなる可能性に期待しています。

以上で私からの話を終わります。